

令和7年度 学校研究

<研究主題>

自ら気づき、考えて行動する生徒を育成する授業づくりⅡ
～深い学びにつながる総合的な探究の時間の授業づくり（1年次）～

1 研究主題について

本校では、社会自立を目指す視点での研究に長年取り組んできた。生徒たちは働く力を高め、「自立を目指して『明るく』『すなおに』『たくましく』」の校訓のもと、学習活動に取り組んでいる。

令和元年度～令和3年度の「生徒の確かな成長とキャリア発達を促す学習評価の充実」では、職業科の授業研究の中で、社会に出てから自立した生活を送るには、状況を理解し、自分で考え臨機応変に対応することが求められ、主体的に行動する生徒の育成に継続して取り組んでいく必要があることを確認した。これを受けて、令和4年度～令和6年度の研究では主題を「自ら気づき、考えて行動する生徒を育成する授業づくり～確かな学びをつなぐカリキュラム・マネジメントの構築～」と設定し、3か年計画で取り組んできた。

1年次は、学習指導要領の内容を3年間で学習するために、教科ごとに年間指導計画を整えると共に、各教科等の見方・考え方を働かせる「問い」のある授業実践を行った。2年次は、「深い学び」をキーワードとして、生徒の主体性を引き出し、見方・考え方を働かせる「発問」「学習内容」の工夫と、教科間のつながりを意識した年間指導計画の整理に取り組んだ。3年次は、各教科等を合わせた指導である生活単元学習について、行事や教科等とのつながりをさらに整理し、生徒の生活に即した単元計画と、その中で見方・考え方を働かせる「発問」「学習内容」について工夫してきた。研究のまとめとして、3年間を見通した学習内容の整理、生徒の生活や就労と結び付け、学ぶ意義を実感できる学習、各教科等の見方・考え方を働かせるための工夫ある授業実践を行うことができた。また、学びをより身近な事として考えたり、学んだことを次の学習へ生かしたりするなど、生徒が主体的に学ぶ姿につながった。

前研究のまとめをふまえ、今年度より、2か年計画で総合的な探究の時間に焦点を当てた授業づくりに取り組むこととした。今年度は、「職業や進路に関する課題」を探究課題として、各教科等の見方・考え方を組み合わせて働かせながら、生徒自身の将来や生き方について深く探究し、現実的に進んでいく力を育む学習活動の在り方について、本校の実践を再確認し考察していく。これまでの研究で得た成果を生かして、生徒が主体的に学ぶ授業の工夫を積み重ね、さらなるカリキュラム・マネジメントを進めたい。「自ら気づき、考えて行動する生徒」としてイメージする生徒の姿（望む姿）を、より明確にして主題に迫りたい。

2 研究のねらい

生徒が、自ら気づき、考えて行動するようになるための、「深い学び」のある総合的な探究の時間の授業づくりに取り組む。

3 研究の方法

(1) 研究の視点

視点1 総合的な探究の時間の授業における「発問」や「学習内容」の工夫

総合的な探究の時間の各単元において、総合的な探究の時間の特質に応じた「探究の見方・考え方」を働かせる「発問」や「学習内容」のあり方について検証する。

視点2 総合的な探究の時間の年間指導計画の整理

現場実習と関連付けたり、教科等横断的な視点で連続的、発展的に展開したりすることで課題解決につながり、学習効果が高まる単元を配列した年間指導計画を作成する。

(2) 研究方法

① 視点1の総合的な探究の時間の授業における「発問」や「学習内容」の工夫について

ア その単元の学習で目指す「自ら気づき、考えて行動する生徒の姿」を各学年で話し合う。単元での望む姿として単元の個別目標に具体的に記しイメージを共有する。

イ 「探究の見方・考え方」を働かせるとはどういうことかを、全体会や各学年での話し合いの過程で確認し、共有する。

ウ 授業改善の話合いや、研究授業後の研究協議で、学年ごとに、総合的な探究の時間の特質に応じた「探究の見方・考え方」を働かせる「発問」や「学習内容」について検討する。

エ 単元の間際に授業改善のための話し合いを行い、前半の学習の発問や学習内容について振り返り、後半の授業の改善を行う。

オ 研究日より各学年の総合的な探究の時間の「発問」や「学習内容」について紹介する。

カ 授業実践報告集「いしずえ」で、「発問」や「学習内容」について協議したことや、取り組みの成果と課題をまとめる。

② 視点2の総合的な探究の時間の年間指導計画の整理について

ア 各学年で、カリキュラム・マネジメントの視点で単元配列を工夫し、「自ら気づき、考えて行動する生徒の姿」に近づけることができたかを検討する。

イ 授業実践報告集「いしずえ」に、総合的な探究の時間と各教科等の年間指導計画を学年ごとに一覧にした単元配列表を掲載する。

③ 各学年で授業研究に取り組む。

学年	実施時期(予定)	単元名	事後研修会
1学年	9月(校内研)	「働くことについて考えよう ～職場見学を通して～」	学年で行う →シェアリング
2学年	11月(校内研)	「働き続けるために必要な力について考えよう ～自立し、幸せになるために～」	学年で行う →シェアリング
3学年	7月(校内研)	自分の進路を考えよう2 「社会人セミナー Ⅱ 『居住地の関係機関を訪ねよう』 ～カラフル困った! さあ、どうする!?! ～」	学年で行う →シェアリング

- ④ 生徒が、総合的な探究の時間の特質に応じた「探究の見方・考え方」を働かせることができるようになったか、自ら気づき考えて行動する生徒に近づいたかを評価する。（評価の方法については、後日提案する。）

4 研究計画

(1) 研究期間 令和7年度から令和8年度までの2か年とする。

(2) 研究計画の概要

		1年次 令和7年度	2年次 令和8年度
研究の内容	①	<ul style="list-style-type: none"> ・「探究の見方・考え方」について確認と共有。 ・「自ら気づき、考えて行動する生徒の姿」の個別目標への表記と共有。 ・総合的な探究の時間の授業における「探究の見方・考え方」を働かせる「発問」や「学習内容」の工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自ら気づき、考えて行動する生徒の姿」の個別目標への表記と共有。 ・主体性を引き出し、「探究の見方・考え方」を働かせる「発問」や「学習内容」の工夫。
	②	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の実施と見直し。 ・総合的な探究の時間の単元の整理。 ・単元配列表に沿って授業実践し、カリキュラム・マネジメントを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の実施と見直し。 ・単元配列表に沿って授業実践し、カリキュラム・マネジメントを行う。 (1年次の課題をもとにしたカリキュラム・マネジメントの検証。) ・整理した単元のPDCAサイクルの循環。
	③	学年毎の研究グループ	学年毎の研究グループ
中心となる教科	校内研	総合的な探究の時間 (各学年)	総合的な探究の時間 (期日：未定) (対象学年：未定)
	公開研		総合的な探究の時間 (期日：未定) (対象学年：未定)

(3) 年間計画

月	授業研究に関する取り組み	主な内容
4	研究推進委員会①	今年度の研究についての検討、全体会に向けて
	教科部会（生単、総合）	年間指導計画検討等
	研究推進委員会②	研究全体会Ⅰに向けて
	研究推進委員会③	
5	研究推進委員会④ 研究全体会Ⅰ（15日） 職員会議	研究全体会Ⅰを受けて／授業案の様式検討 今年度の研究についての共通理解 授業案の様式を提案
6		
7	研究推進委員会⑤ 校内研（3学年）	1学期の反省と2学期に向けて 授業実践と研究協議
8		
9	校内研（1学年）	授業実践と研究協議
10	研究推進委員会⑥	
11		
12	公開研修会 研究推進委員会⑦	演題 「特別支援学校における総合的な探究の時間」 講師 山形大学学術研究院 教授 野口 徹氏 今年度の反省と次年度に向けて
1	校内研（2学年） 研究推進委員会⑧	授業実践と研究協議 今年度の研究のまとめ、研究全体会Ⅱに向けて
2	研究全体会Ⅱ 研究推進委員会⑨	今年度の研究のまとめ 次年度の研究について
3	授業実践報告集「いしずえ」完成	

5 研究の全体構想

<学校教育目標>

主体的に学び、関わる力を伸ばしながら、社会自立をめざす人を育てる

<めざす生徒像>

- (1) 自ら考え、学び、挑戦する生徒 (体験・探究/自主自律、学ぶ意欲、個性の発揮)
- (2) 互いを尊重し、関わり合って生活する生徒 (尊重/自己理解、他者理解、思いやり、健康)
- (3) 働く喜びを知り、社会自立をめざす生徒 (協働、自己実現、社会自立、地域貢献)

<今年度の重点>

- (1) カリキュラム・マネジメントに基づいた教育課程編成と教育実践
 - ①カリキュラム・マネジメントで教育課程を検討し、教育の質の向上を図る。
 - ②各教科等の特性を踏まえた授業改善に取り組み、生徒主体の授業づくりを推進する。
 - ③ICT 機器等を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの充実を図る。
- (4) 教職員の専門性の向上と特別支援教育のセンター的機能の充実
 - ②教職員が授業を見合い、話し合う場を設定して授業力、専門性の向上を図る。

<研究主題> 自ら気づき、考えて行動する生徒を育成する授業づくりⅡ

～深い学びにつながる総合的な探究の時間の授業づくり(1年次)～

<研究内容>

<視点1>

総合的な探究の時間の年間指導計画の整理

<視点2>

総合的な探究の時間の授業における「発問」や「学習内容」の工夫

<授業実践>

- 1 総合的な探究の時間で、教科横断的・総合的な学習、探究的・協働的な学習活動の実践。
- 2 総合的な探究の時間の特質に応じた「探究の見方・考え方」を働かせる「発問」や「学習内容」を取り入れた単元計画。
- 3 年間計画に沿った授業実践、校内授業研究会(1年次)、公開授業研究会(2年次)の実施。
- 4 PDCAサイクルの循環で、授業改善を図る。

<実践のまとめと研究の評価>

- 1 主題とサブテーマは、学校の実態に即して適切だったか。
- 2 視点は、研究のねらいに迫り、授業改善につながったか。
- 3 授業研究により、生徒が、総合的な探究の時間の特質に応じた「探究の見方・考え方」を働かせることができるようになったか。自ら気づき考えて行動する生徒に近づいたか。
- 4 適切な研究計画が立てられ、全員で協力する体制が取られたか。

